

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1272200799		
法人名	(有) グループホーム さんぽみち		
事業所名	グループホーム さんぽみち柏		
所在地	千葉県柏市布施新町3-28-20 (電 話) 04-7135-3031		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成20年3月29日	評価確定日	平成20年4月12日

【情報提供票より】 (平成20年3月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	12 人	常勤 2 人, 非常勤 10 人, 常勤換算4.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木質系組立構造 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	光熱水道費 15,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無(検討も考慮)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 2,000 円		

(4) 利用者の概要 (3月 1日 現在)

利用者人数	8名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1		要介護 2	1名
要介護 3	3名	要介護 4	4名
要介護 5		要支援 2	
年齢	81 歳	最低 63 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	我孫子つくしの病院	我孫子中央歯科室
---------	-----------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは柏市第一号のグループホームであり、閑静な住宅団地内に立地し、木造2階建ての二世帯住宅を改造した施設である。居室は1階に2室、2階に6室を配置している。しかし、2箇所の急な階段で結ぶ構造となっている為安全に配慮し、現在は一部相部屋となっており個室対応がなされていない。運営者の姿勢から自然の中での普通の生活が望ましいとして空調設備も最小限とし、個人生活を重視しながらも日中は居間を中心に集団で生活している。職員は皆、中高年で長期勤務者であり、その知識や経験をもとに利用者の自立支援をめざし、共同の生活者として温かみのある対応を心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果は居間に備えられ、利用者、家族、外来者、職員など誰でも閲覧可能となっている。職員は全員、これに目を通してミーティングを行っている。その結果、利用者記録のファイル化、契約書の保管方法の改善、消火器の整備を実施した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回、3回目の外部評価を受けるにあたり、自己評価のための担当職員を決めて検討し、現状と課題の把握に努めている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は柏市の指導により、市職員(包括支援センター)、民生委員、利用者、家族、運営者、職員の構成で年3回開催している。内容は運営状況についての報告が中心となっている。現在メンバーからの意見をもとに地域との連携強化と活動の充実のため、自治会関係者の参加をお願いしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の毎日の状況記録をもとに、毎月の「個人記録総評」を作り、運営者に見せた後に家族に送り、閲覧のサインとコメントをいただいている。コメントとして、「利用者が生き生きしてきた」「職員の対応がよい」などが見られた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当グループホームは自治会に加入し、利用者は職員と共にゴミ当番も行っており、盆踊り、祭り、運動会、月2回の喫茶室など地域と密接に関わっている。また地域住民の紹介でハーモニカ、手品などのボランティアの協力を受けている。毎日の散歩では、近所の人たちから「楽しそうですね」「皆さん元気ですか」などの声をかけられている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「利用者の残存能力を活かし、やさしく、思いやりのある普通の生活を送る先輩としての気遣いを」であるが、文章は作成されておらず、掲示もしていない。	○	利用者と接する職員が自分たちの言葉で分かりやすい理念を作り、利用者や家族等に掲示されることを勧めたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日常会話の中で、また介護の実践の中で共有し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当グループホームは自治会に加入しており、ごみ当番も利用者は職員と共に行っている。この他、お祭り、盆踊り、運動会等の町会の行事に参加している。毎日の散歩の時に近所の住民と声を掛け合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で外部評価は3回目となるが、昨年度の評価結果を居間に掲示し全職員で確認している。具体的には書類をファイル化し利用しやすくなった。また消火器の期限を確認し取り替えるなど改善した。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柏市の規定により、年3回実施している。メンバーは柏市包括支援センター職員、民生委員、家族代表、利用者代表、運営者、職員等である。会議では介護の内容について報告し、メンバーからの意見を介護に役立てている。	○	運営推進会議のメンバーに自治会や老人会など各方面の代表に参加を要請し、メンバーの意見をさらに介護に活かすよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に努めて顔を出し、指示を受けている。市主催の町会向け認知症講座には職員も参加して住民と共に学んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとの一ヶ月の様子をまとめ、個人記録総評として家族等に送付している。金銭管理は行っていないが、立替払いとして毎月請求領収書を送っている。行事への参加依頼については家族に電話で連絡している。	○	利用者ごとの個人記録を家族等に送っていることは評価できることである。できれば定期的なグループホーム便りで全体の記事や行事予定についても送付できるよう検討をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居間に相談、苦情窓口を明記し掲示している。利用者ごとの個人記録を毎月開示し、家族等からもコメントをもらっている。苦情についてはほとんどなく、職員の利用者への関わり方が良いとの感想が寄せられている。家族会の設立を考慮中である。	○	利用者、家族等からの相談、苦情はほとんどないが、家族会を設置し、職員と共にさらに利用者が過ごしやすい環境づくりの検討をいただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当グループホームの職員はほとんどが中高年であり、職員同士の関係がよいので離職者が少ないのが特色である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じ て育成するための計画をたて、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きなが らトレーニングしていくことを進めてい る	職員は日常の職務の中で利用者を熟知するな ど現場で研修している。外部研修は柏市主催 の研修会やグループホーム連絡会の研修会を はじめ、身体拘束、高齢者虐待、衛生面につ いての研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワーク づくりや勉強会、相互訪問等の活動を通 じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている	年2回、柏市グループホーム連絡会の研修会 に参加している。スタッフ同士の交流会や講 演会で得た情報で、例えば浴室の温度計の設 置など介護サービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	入居の問い合わせに対しては直接見学して もらったり、管理者は利用者の居宅を訪問し、 利用者本人に納得していただくよう配慮して いる。また他の入居者と共に過ごしてもら い、様子をみてから入居を決定してもらって いる。お試し宿泊体験等は行っていない。	○	入居の問い合わせに対しては丁寧に対応 し、利用者の自宅でのアセスメントも実施 している。さらにお試し宿泊体験で実際に 生活できる機会があれば、利用者は納得で きると考えられるので検討いただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	利用者から教えられる機会が多くあり、例 えば調理を共に行ってスタッフが学ぶ等利用 者の残存能力を活用している。また職員は利 用者のやさしい言葉に癒され、生きがいにな っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者は利用者や家族等から希望や意向を聞いている。直接聞けない場合は電話で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員全員の会議で利用者ごとのケアについて検討している。計画作成担当者は常勤者と常に話し合い、利用者ごとの日誌を確認したうえで利用者、家族等の意向をもとに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化がなければ6ヶ月ごとに介護計画を見直している。変化があれば随時見直している。計画作成担当者は職員に相談し、意見を取り入れながら利用者、家族等に確認している。見直した介護計画作成時には家族等からサインをもらっているが、文書の交付はしていない。	○	介護計画について利用者、家族に説明し同意をとった日時の欄を設け、家族等にも計画書を交付するよう配慮されたい。また利用者の生活全体を考慮して、さらに頻回な介護計画の見直しに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の親族や身内でない訪問者については家族に確認してから受け入れている。職員は地域の方からの介護相談をうけることもある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週毎に利用者が歩いて行くことができる範囲内の2箇所の医院で受診している。また24時間往診可能な体制がある。利用者の主治医への受診は家族が対応している。受診結果については異常があるときは家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての意向は入居契約時に利用者、家族等から聞いているが、最終的には医療が必要な時点で病院に移っている。グループホームで看取りができるほどの体制は整っていない状況である。利用者は年々重度化しており、看護師が月2回夜勤をするなど医療との連携で維持している。	○	当グループホームの利用者は高齢化、重度化している。職員は重度化、看取りに対しさらに研修に努め、利用者が安心できる体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の欠点の指摘や注意することは人前で言わないようにしている。排泄についてはさりげなく行うなど配慮し、利用者を傷つけない言葉遣いに留意している。個人情報に関するファイルは一箇所にまとめて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースに合わせた介護を心がけている。例えば食事やおやつはその日の利用者の希望にそって献立を立てている。今以上に利用者本位に取り組む為には職員の人員が足りず、十分な介護ができない現実もある。	○	職員は利用者のペースを大切に、懸命にその人らしい生活の実現を目指している。運営者は管理責任者を法定基準人員外に配置し、本来の職務に専念できるような人員の検討をいただきたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日利用者の希望を聞き、職員は利用者の好みに添った献立を立てている。利用者は食材を切ったり皮をむいたり、食器洗い、配膳、下膳を手伝って楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回(月、金)であり、それ以外は清拭をしている。入浴日には職員を増員しており、3時間に8人の利用者が入浴している。	○	当グループホームは週に2回のみ入浴日として職員を増員している。利用者の希望やタイミングにあわせてゆっくりと入浴を楽しめるよう、入浴回数も含め検討いただきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事は季節に合わせて催し物を行っている。利用者の誕生日会は職員全員が参加し祝っている。利用者は日常的に体操、掃除、縫い物、編み物、洗濯物たたみ、折り紙、ボランティア参加のレクリエーションを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行っている。その他、近くの公園の花見会、小学校の催し物、外食等に出かけている。当グループホームには車両がないため、遠出の外出時は利用者負担により介護タクシーを利用しているので頻回には遠出できない。	○	利用者の高齢化、重度化を考えると車両は必需品であり、検討を期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は職員から死角になっている為、常時鍵をかけて利用者の安全を図っている。以前は鍵をかけていなかったが、利用者が外に出てしまい近隣の住民の協力を得て探したこともあり、家族等の了解を得ている。	○	利用者の安全を考えると鍵をかけている事もやむをえないが、ドアに音の出るものをつけるなど日中鍵をかけない工夫をし、地域の住民が気軽に顔を出せる雰囲気をお願いしたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1回実施しており、自治会の災害訓練には職員が参加している。避難訓練には消防署の協力は得られていない。今後は協力を得られるよう働きかけたい。備蓄については2日分を用意している。	○	避難訓練に消防署の協力を得ることは重要である。自治会への協力の要請と共にさらに働きかけていただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下で栄養バランスを考えた献立を立てている。特に水分摂取については配慮しているが、食事、栄養、水分などのチェック表は作成していない。	○	利用者ごとの介護記録の書式の改善を検討し、一日の記録の中に一日で摂取量や排泄等の利用者の身体、生活情報が把握できるような形式を考慮いただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅団地内の一角に二世帯住宅を改造した建物となっており、内部の施設も普通の住宅仕様である。室内や浴室など段差がそのまま存在し、暑さ、寒さに対してもできるだけ自然にという運営者の考えもあり、特別な空調設備はなされていない。	○	利用者は自宅にいる時と変わらない感覚で生活することができるといえるが、狭い居間や台所では動きが制限され、急傾斜の階段の使用は転倒の危険がある。建物上の制限がある中、利用者は自宅にいる時と変わらない感覚で生活することができるといえるが、狭い居間や台所では動きが制限され急傾斜の階段の使用は店頭の危険がある。建物上の制約はあるが、早急に改善を検討願いたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は備え付けの簡易ベッドや家具が置かれ、殺風景である。また急な階段の危険性を考慮し、2階の3室は使用されず、家族の了解のもとで、階下の部屋で2～3人が同居している。一室に複数台、簡易ベッドが入っている為、利用者にとって居心地のよい居室とは考えられない。	○	利用者は全員、日中は居間で過ごしているが、在宅であるグループホームならではの個室のよさを充分活かすことできるよう改善してほしい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。